

(証券コード 7702)

株式会社 ジェイ・エム・エス

2023年3月期 第2四半期 連結決算の概要

2022年11月4日

連結：増収減益

売上高	29,975百万円(+1,699百万円)
営業利益	△44百万円(△659百万円)

売上： 国内は新型コロナウイルスの感染再拡大の影響から消耗品の需要回復が鈍化し微減、海外は需要回復の兆しがみられ、主力の血液バッグやA V F 針（血液透析用針）が伸長、円安による円貨換算額の増加も加わり増収

利益： 海外売上伸長で増収効果はあるものの、原材料費や電力費、海上運賃の高騰影響に加え、海外拠点の労務費や段階的な活動再開に伴う販売費の増加により減益

システム別売上高

透 析：北米向けをはじめA V F 針が増加したほか、欧州で透析用のチェアやキットが増加

血液・細胞：需要回復の兆しがみられ、アジア向けを中心に血液バッグが増加

地域別売上高

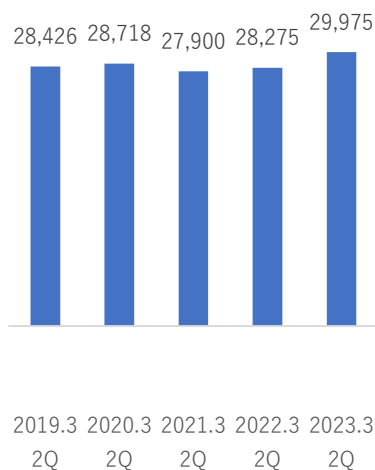
アジア： 血液バッグの増加に加え、中国でA V F 針や急性血液浄化事業に係る販売が増加

北 米： 大手顧客向けA V F 針が増加したほか、成分献血用回路の販売が回復

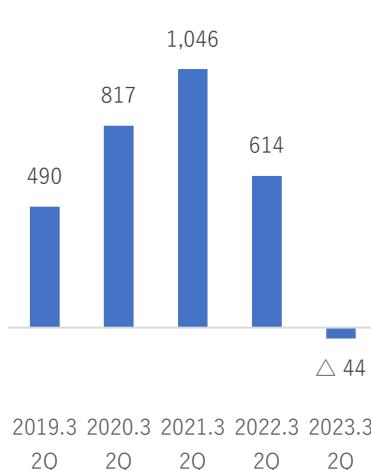
(単位：百万円)

	2022年 3月期 2Q	2023年3月期 2Q		対前期 増減額	対前期 増減率
		公表予想	実績		
売上高	28,275	29,100	29,975	1,699	6.0%
営業利益	614	400	△ 44	△ 659	—
経常利益	683	400	56	△ 627	△ 91.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	497	250	△ 68	△ 565	—

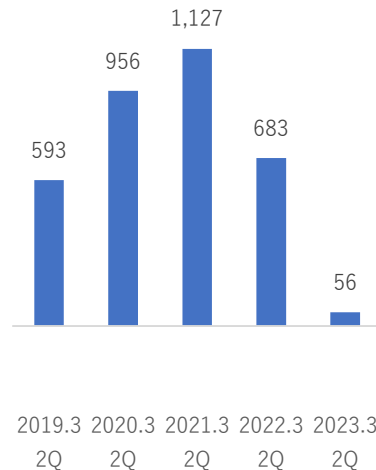
売上高



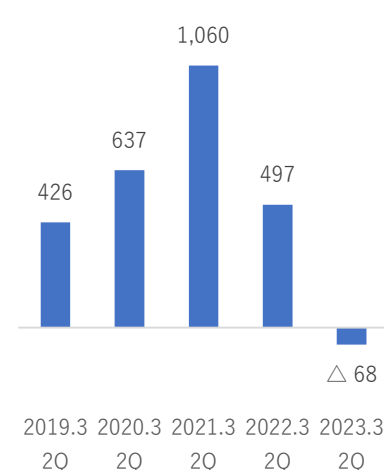
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する
四半期純利益



セグメント業績（拠点別、経常利益ベース）

- 日本： 売上は薬剤調製・投与クローズドシステムが堅調に推移、急性血液浄化事業に係る販売が中国向けを含めて増加し増収、利益は原材料費や電力費の高騰影響に加え、円安による外貨建て仕入取引の円貨換算額や販売活動の段階的な増加により減益
- シンガポール： 売上は血液バッグが伸長、成分献血用回路は北米向けが販売回復、円安による円貨換算額の増加も加わり増収、利益は原材料費や電力費、海上運賃の高騰影響を受けるも増収効果と為替差益の計上により増益

（単位：百万円）

		2022年 3月期 2Q	2023年 3月期 2Q	増減額	増減率
日本	売上高	20,542	21,361	818	4.0%
	利益	587	△ 89	△ 676	—
シンガポール※	売上高	8,365	10,515	2,150	25.7%
	利益	26	216	189	715.3%
中国	売上高	1,640	1,878	237	14.5%
	利益	67	56	△ 11	△ 17.0%
フィリピン	売上高	1,580	1,668	88	5.6%
	利益	154	45	△ 109	△ 70.8%
ドイツ	売上高	1,745	1,870	124	7.1%
	利益	61	71	10	16.4%
その他※	売上高	1,947	2,527	579	29.8%
	利益	19	△ 47	△ 67	—

※シンガポールは、生産体制を相互に補完し一体とした事業活動を行うインドネシアの現地法人を含んでいます。

※その他は、国内子会社及びアメリカ、韓国、タイの現地法人の事業活動を含んでいます。

(単位：百万円)

輸液・栄養領域



薬剤調製・投与クローズドシステムが堅調に推移したものの、医療用手袋や栄養セットの減少により微増



売上高

透析領域



北米向けをはじめA V F 針の販売が好調に推移したほか、欧州で透析チェアや透析キットが増加



売上高

外科治療領域



人工心肺用回路が増加したほか、日本及び中国で急性血液浄化事業に係る販売が増加



売上高

血液・細胞領域



海外需要に回復の兆しがみられ、血液バッグが増加

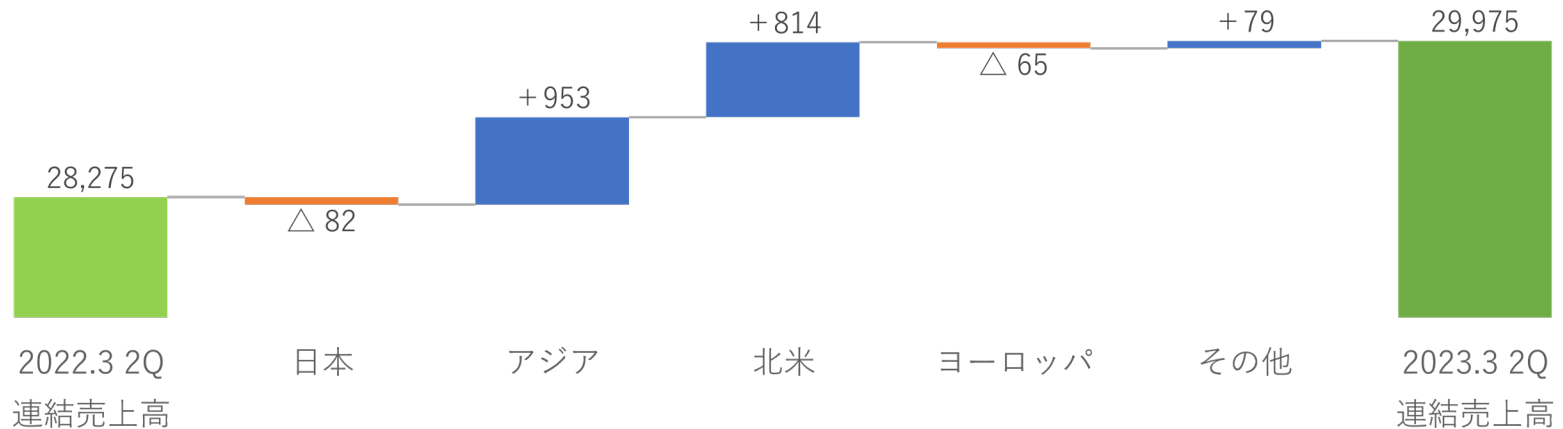


売上高

日本は新型コロナの感染再拡大の影響から消耗品の需要回復が鈍化し微減
 海外はアジアで血液バッグやA V F 針が増加、北米でA V F 針や成分献血用回路が増加

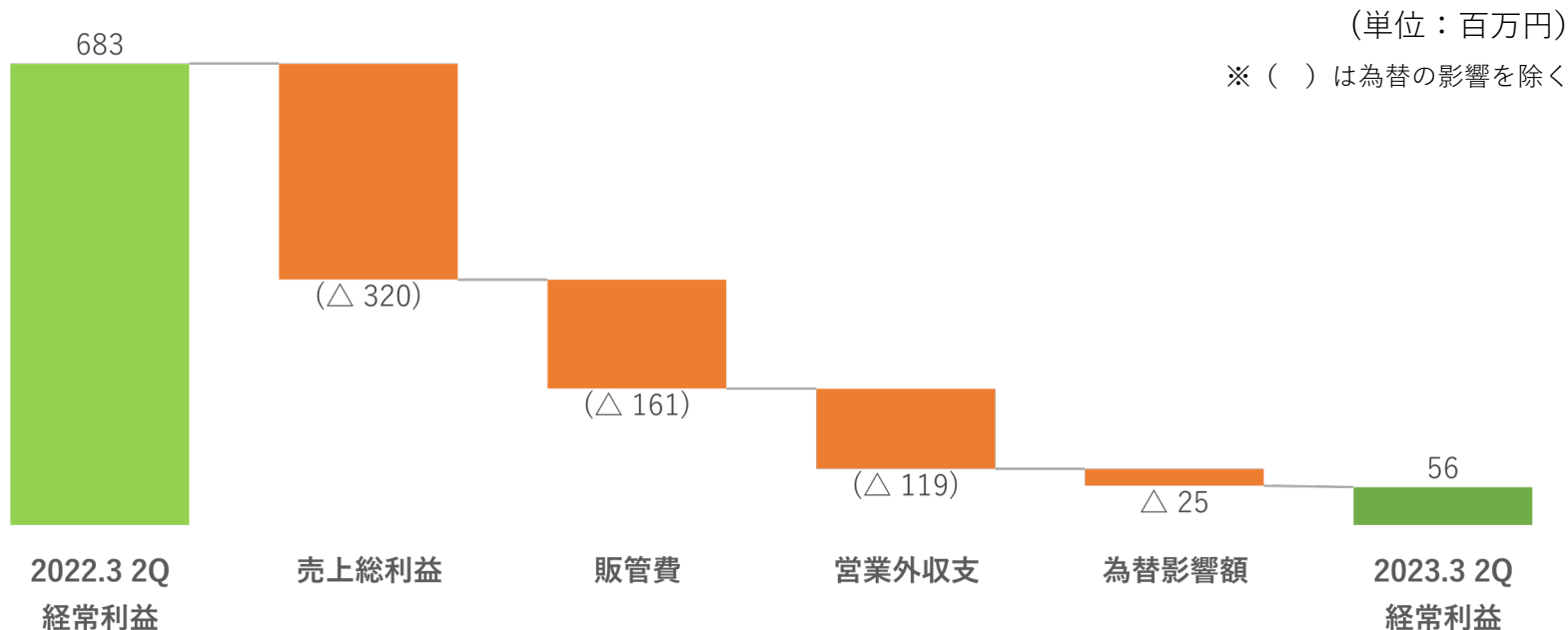
(単位：百万円)

	2022年 3月期 2Q	2023年 3月期 2Q	増減額	増減率	売上高 構成比
日本	18,915	18,832	△ 82	△ 0.4%	62.8%
アジア	3,576	4,530	953	26.7%	15.1%
北米	2,468	3,282	814	33.0%	11.0%
ヨーロッパ	2,814	2,748	△ 65	△ 2.3%	9.2%
その他	501	581	79	15.8%	1.9%



経常利益増減要因

売上総利益：原材料費や電力費、海上運賃の高騰影響に加え、海外拠点の労務費増加により減少
 販管費：段階的な活動再開に伴う販売費や、物価高騰影響による運送費が増加



為替レート (期中平均)

	米ドル	ユーロ	シンガポールドル
2022年3月期 2Q	109.80 円	129.82 円	81.80 円
2023年3月期 2Q	133.97 円	134.25 円	96.55 円

当第2四半期連結累計期間の実績を踏まえ、前回公表した2023年3月期の通期連結業績予想を修正しました。

(単位：百万円)

	2022年3月期 実績	2023年3月期		対前期 増減率
		前回予想	今回予想	
売上高	58,169	60,000	62,000	6.6%
営業利益	980	1,200	400	△59.2%
経常利益	1,126	1,200	400	△64.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	826	900	200	△75.8%

※業績予想の修正にあたっては、前提となる為替レートを、
1米ドル=142円、1ユーロ=138円、1シンガポールドル=101円としております。

- 売上： 需要は回復基調にあり、着実な需要の取込みにより引き続き販売拡大に努める
半導体等の調達難で生産調整を行った装置は、下期以降、販売を回復させていく
- 利益： 原価低減を更に推進し、原材料費や電力費など物価高騰の影響を吸収する
これに合わせて引き続き、販売価格や海上運賃負担など取引条件の見直しを進める

2022年8月

出雲工場の第7期棟を造設

物流の更なる効率化を図るため、倉庫棟2,000㎡を新たに整備しました。



2022年9月

大研医器株式会社との業務提携に向けた基本合意のお知らせ

抗がん薬治療（化学療法）における新たなソリューション提供の検討を開始しました。



人と医療のあいだに…

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。